

3人の知恵の結集 「子どもの地元愛育成アプリ」





受賞の様子

1月27日に東京都で開催された、内閣府地方創生推進室主催の「RESASアプリコンテスト」で、都城工業高等専門学校情報処理部の原翔耶さん、片山北翔さん、萩原拓望さんのチームが、全国2位となる優秀賞と、ソフトバンク・テクノロジー株式会社賞を受賞しました。

同コンテストでは「地域経済分析システム（RESAS）」を活用した地域経済の分析や、地域の魅力発掘に役立つアプリケーション（アプリ）の開発力を競うものです。

人の風景

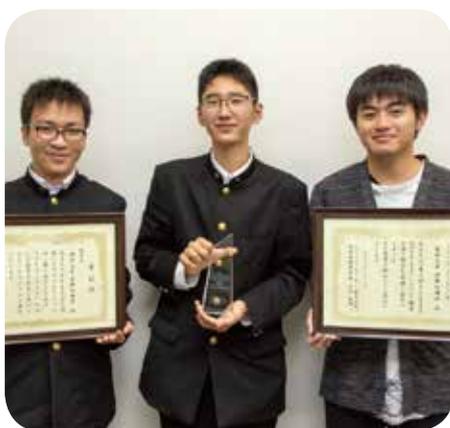
smiling faces of miyakonojo

受賞したアプリ名は「宮崎地方創生シミュレーションゲーム輝け☆ミライの観光大使」。RESASデータと連動した県内市町村の観光や産業などの質問に答えながら、まちを活性化させていく小学生向けのゲームです。そのアプリ開発のきっかけとなったのが、県外の人から「宮崎県はどういうところ」と尋ねられても答えられなかった原さんの経験でした。

子どもたちに地元の良さを知ってもらうことで、地元愛に溢れた未来の観光大使を生み出したいという思いの詰まったアプリを開発。片山さんは「今までは1人で開発していたので、今回のチームでの開発は貴重な経験だった」と振り返り、萩原さんは「チーム開発で、自分の技術力不足も分かり、成長できた」と話します。

3人が所属する情報処理部は、電気情報工学科の学生を中心に17人が所属し、プログラミングや音楽制作などを学んでいます。顧問の丸田要助教は「好奇心旺盛で実行力のある原さん、プログラミングの基礎がしっかりとできてきている片山さん、リーダーシップを発揮できる萩原さん」と3人を評します。

来年10月に総合文化ホールで開催



RESASアプリコンテスト 優秀賞
ソフトバンク・テクノロジー株式会社賞
(右から)

原 翔耶さん(4年)

片山 北翔さん(2年)

萩原 拓望さん(2年)

(都城工業高等専門学校情報処理部)

される第30回全国高等専門学校プログラミングコンテストでも中心メンバーとなる3人。原さんは「今後もさまざまなことに挑戦し、結果を残したい」、片山さんは「周りの人を頼らず引っぱり張っていける人材になりたい」などそれぞれの目標を見据えています。